

令和 5 年 3 月 10 日

青森市政記者会 様

青森市経済部交流推進課長

日本語パートナー養成講座の開催について（情報提供）

このことについて、別添資料のとおり情報提供します。

**【担当】**

青森市経済部交流推進課

主査 山口、主幹 細田

TEL : 017-734-5235

FAX : 017-734-5146

令和 5 年 3 月 10 日

青森市政記者会 様

(公社) 青森県観光国際交流機構

青森県観光国際交流機構では青森市と共催で、日本語パートナー養成講座を下記の日程において開催しますので、取材・報道をよろしく願います。

### 記

開催日時	令和 5 年 3 月 4 日、11 日、18 日 (土) 13 時～16 時
場 所	八甲田丸
事業概要	異文化理解のために必要な知識を学び、「やさしい日本語」を使って外国人に寄り添うコツを身につけ、最終日の 3 月 18 日には青森で暮らす外国人住民と実際に交流して対話力を鍛えます。 養成講座終了後は県内各地で開催されている「交流型日本語教室」等で日本語パートナーとして活躍していただきます。
そ の 他	取材に当たっては、新型コロナウイルス感染症対策のため、マスクを着用のうえ、必要最小限の人数で対応くださるようご協力よろしく願います。

**【問合せ先】**

(公社) 青森県観光国際交流機構

TEL: 017-735-2221

令和4年度

あなたの地域で学べます

# 日本語パートナー 養成講座

青森に暮らす外国人住民に寄り添う

「日本語パートナー」を養成します。



- 開催日：令和5年3月4日、11日、18日(土)
- 時間：午後1時～午後4時（3回すべて）
- 場所：八甲田丸 会議室
- 内容：裏面参照
- 定員：20名 **無料**

※申込者が多数だった場合は、主催者において、調整させていただきます。

講座では、異文化理解のために必要な知識を学び、「やさしい日本語」を使って外国人に寄り添うコツを身につけ、最終日には青森で暮らす外国人住民と実際に交流して対話を鍛えます。英語等の語学力や日本語教育の経験は一切必要ありません。養成講座修了後は、県内各地で開催されている「交流型日本語教室」等で「日本語パートナー」として活躍していただきます。

※この養成講座は、多文化共生社会の実現を目的に、(公社)青森県観光国際交流機構が青森市の協力により青森大学と連携して行ないます。

外国人との交流や支援に関心のある人



こんな方々にお勧めです



日本語学習支援に興味がある人

お申込み

申込方法は2つあります。

- ① お名前（ふりがな）とお電話番号を下記メールへお送りください、折り返し申込書に必要な内容をお知らせします。
- ② QRコード(⇒)を読み取り、フォームへ直接ご記入ください。



【お問合せ】(公社)青森県観光国際交流機構 担当:三上  
TEL 017-735-2221 /Email:aoni\_project@aomori-kanko.or.jp

主催:(公社)青森県観光国際交流機構 共催:青森市/青森大学 後援:青森県教育委員会

# 日本語パートナー養成講座について

## 講座概要

(この講座は、3回講座となっています)

★1日目 令和5年3月4日(土) 13:00~16:00  
[テーマ]日本語パートナーとは  
外国人と話すためのポイント  
[講師]青森大学 藤泉(とういづみ)先生

★2日目 令和5年3月11日(土) 13:00~16:00  
[テーマ]異文化コミュニケーションとは  
[講師]青森大学 石塚(いしづか)ゆかり先生

★3日目 令和5年3月18日(土) 13:00~16:00  
[テーマ](実践)外国の人と話してみよう  
[講師]青森大学 朴芝仙(ぱくちそん)先生

## 交流型日本語教室に参加しよう！！

日本語パートナー養成講座修了後は、(公社)青森県観光国際交流機構に「日本語パートナー」として、登録されます。地域日本語教室や、交流型日本語教室において活動できます。

新年度の青森市の交流型日本語教室は、令和5年5月から始まります。



↑ 文化体験中 ↓



← 学習した日本語でカードを作る

## 交流型日本語教室とは…

(公社)青森県観光国際交流機構が、青森県から委託を受け、青森県に住んでいる外国人と地域住民とがつながりをもって日常生活や社会生活を送れるように、また、安心して暮らせる地域社会づくりを推進するために、お互いが対等な関係のもとで、対話による交流をとおして信頼関係を深めることを目標に開催しています。

現在、県内4つの圏域で開催しており、青森市でも令和3年度から開催しています。



↑ 防災教室にて、通報訓練

災害に関する日本語を学んだあとは、起震車にも乗りました。↓

